



2021年4月22日放送

学薬アワー 2020年度全国学校保健調査集計結果報告

日本薬剤師会 理事
学校薬剤師部会 副部会長 清水 大

2020年度全国学校保健調査の結果の一部を、速報値として報告させていただきます。この全国学校保健調査は全国の学校における環境衛生活動の実績を把握し、その充実や改善に役立つ目的で昭和47年から毎年、調査項目を選定し、全国の学校薬剤師が各担当校において調査・回収し、日本薬剤師会学校薬剤師部会が集計・分析をしています。

2020年度の全国学校保健調査では、2019年における「学校環境衛生基準」に基づいた換気に関する定期検査等について質問をしました。また平成25年度から基本データの続きとして、同じ設問を継続して聞いていますが、今年度は「当該校の1年間の報酬について」を新たに追加しました。

本調査の調査対象は、全国の大学以外の認定こども園を含む、すべての学校51,942校であり、これらの学校のうち回答のあった33,986校から、学校の種類等の基本データの欠落及び予備で返却された未入力のシートによる集計不能を除いた33,904校を対象に集計を行いました。

基本データ部分に関する集計概要

はじめに学校薬剤師、学校保健調査の実施状況等、基本データ部分に関する集計結果について説明させていただきます。

まず学校薬剤師の年代は20代から80代以上の先生方が関わっています。全体として60代が25.9%、50代が25.6%、40代が22.1%、30代が12.5%、70代が11.3%、20代が1.4%、80代以上が1.2%でありました。

次に学校薬剤師に従事している薬剤師のうち、日本薬剤師の会員が93.7%、日本薬剤師

会の会員外が 6.3%でありました。

学校薬剤師の本務の職場は薬局開設者が 33.3%、薬局勤務者が 53.4%、病院・診療所が 5.2%、卸が 1%、でした。

次に学校保健計画の作成にあたり、学校から確認要請が「ありました」 22.7%、「なかった」 77.3%でありました。

学校保健計画に学校環境衛生基準の記載がありましたかについては「全ての検査項目について記載があった」 38.7%、「一部の検査項目しか記載がなかった」 24.2%、「まったく記載がなかった」 1.6%、「わからない」 35.5%でありました。通年のことですが数字自体に変化が見られないのは残念です。

次に学校環境衛生検査は学校環境衛生基準に定められた全項目を実施しましたかについては「全てに項目を実施した」 35.4%、「一部実施出来なかった項目があった」 61.9%、「まったく実施していない」 2.6%でありました。全項目実施出来なかった理由としては「器具が足りない」 37.8%、「予算が足りない」 17.2%、「計画がなかった」 56.5%「時間の都合がつかなかった」 11.4%、「その他」 14.6%でありました。

また実施できていない項目を「要望した」 10.9%、「要望しなかった」 89.1%でありました。学校環境衛生基準検査の結果を校長等管理職に直接報告しましたかでは「毎回報告した」 62.0%、「時々した」 23.5%、「一度もしなかった」 14.5%でありました。

また、学校への出校日数は何日ですかの設問に対しては「12 日以上」 15.9%、「11～8 日」 21.3%、「7～4 日」 41.3%、「3～1 日」 20.5%、「0 日」 1.0%でありました。出校目的についての設問では「定期検査」 96.2%、「臨時検査」 10.1%「学校保健委員会への参画」 35.5%、「保健教育に関する講話・講演及び支援」 28.3%でありました。毎年のことですが学校薬剤師は出来るだけ自分で時間を作って学校保健委員会へ参加してほしいと思います。

以上が 2020 年度調査における基本データに関する集計概要でした。

当該校の年間報酬

次に 2019 年度における当該校の 1 年間の報酬はいくらでしたかの設問です。

「0 万円」 1.4%、「1～5 万円」 21.2%、「6～10 万円」 26.4%、「11～15 万円」 27.5%、「16～20 万円」 8.5%、「21～30 万円」 12.9%、「31～99 万円」 2.1%でありました。

こちらの集計は都合上、7 つの区分で整理しました。幼稚園・小中高等もそうですし、都道府県並びに市町村でも報酬額に違いがあることを報告させていただきます。

以上が当該校の 1 年間の報酬についてでした。

換気に関する定期検査等

次に換気に関する定期検査等について報告いたします。

換気の検査を何回行いましたかの設問に対して「2回以上行った」34.9%、「1回行った」44.6%、「行わなかった」20.5%でありました。どのような測定器を使ったかについては「検知管」83.5%、「非分散型赤外線ガス分析計」10.5%、「その他」6.1%でありました。

次に温度の検査を何回行いましたかの設問に対して「2回以上行った」47.1%、「1回行った」33.4%、「行わなかった」19.5%でありました。どのような測定器を使ったかについては「デジタル表示の0.5度目盛の温度計」53.9%、「非デジタル表示の0.5度目盛の温度計」30.7%「その他」15.4%でありました。

次に相対温度の検査を何回行いましたかの設問に対して「2回以上行った」39.2%、「1回行った」28.3%、「行わなかった」32.5%でありました。どのような測定器を使ったかについては「デジタル表示の0.5度目盛の温度計」52.5%、「非デジタル表示の0.5度目盛の温度計」28.2%、「その他」19.3%でありました。

次に浮遊粉塵の検査を何回行いましたかの設問に対して「2回以上行った」13.5%、「1回行った」11.7%「省略規定により行わなかった」12.1%、「行わなかった」62.7%でありました。どのような方法で行いましたかについては「質量による方法」7.7%、「相対温度計」85.3%、「その他」7.0%でありました。

次に気流の検査を何回行いましたかの設問に対して「2回以上行った」20.4%、「1回行った」13.1%「行わなかった」66.5%でありました。どのような方法で行いましたかについては「カタ温度計」13.5%、「微風速計」76.0%、「その他」10.5%でありました。

次に燃焼器具を使用していますかの設問に対して「使用している」36.4%、「使用していない」63.6%でありました。一酸化炭素の検査は「2回以上行った」9.6%、「1回行った」35.9%、「行わなかった」54.5%でありました。どのような方法で行いましたかについては「検知管法」93.5%、「非分散型赤外線吸収法」1.3%、「定電位電解法」1.1%、「水素炎イオン化検出法」0.1%、「接触燃焼法」0.0%、「その他」4.0%でありました。二酸化炭素の検査は「2回以上行った」7.8%、「1回行った」28.4%、「行わなかった」63.8%でありました。どのような方法で行いましたかについては「ザルツマン法」20.0%、「化学発光法」1.0%、「試験紙光電光度法」15.9%、「検知管法」53.8%、「その他」9.3%でありました。

次に以下の項目で不適合項目はありますかの設問に対して「二酸化炭素」26.4%、「温度」5.5%、「相対温度」3.6%、「浮遊粉塵」0.8%、「気流」1.0%、「一酸化炭素」0.9%、「二酸

化室素」1.9%、「不適合なし」71.5%でありました。不適合項目について指導・助言を行いましたかの設問に対して「全て行った」87.7%、「一部行った」10.1%、「行わなかった」2.2%でありました。指導・助言によって改善しましたかの設問に対して「全て改善した」41.4%、「一部改善した」32.1%、「改善しなかった」3.4%「わからない」23.0%でありました。また検査結果の記録を保存していますかの設問に対して「全て保存していた」94.3%、「一部保存していた」4.4%、「保存していなかった」1.3%でありました。

次に以下にあげる項目について点検を行いましたかの設問に対して「不快な刺激や臭気の有無」53.2%、「換気の実施状況」70.0%、「温度」67.1%「行わなかった」19.3%でありました。また日常点検結果の記録を保存していましたかの設問に対して「全て保存していた」56.0%、「一部保存していた」21.8%、「保存していなかった」22.2%でありました。

以上を持ちまして、2020年度全国学校保健調査の速報に関する説明を終わらせていただきます。

結びになりますが2020年度は新型コロナウイルスが蔓延する中、本調査を実施するにあたり、ご指導ご鞭撻を賜りました文部科学省初等中等教育局 健康教育調査官並びに各都道府県市町村等の教育委員会に深く感謝申し上げます。